

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 9 月 28 日現在

機関番号：25201

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2012～2014

課題番号：24593551

研究課題名(和文)患者参加型糖尿病教室において育む精神障がい者のエンパワメントに関する研究

研究課題名(英文) Empowerment process of mentally handicapped outpatients who participate in the patient participation in planning style of diabetes class

研究代表者

石橋 照子 (ISHIBASHI, TERUKO)

島根県立大学・看護学部・教授

研究者番号：40280127

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,200,000円

研究成果の概要(和文)：精神科デイケアに通所する糖尿病を併せ持つ精神障がい者を参加者として、参加型糖尿病教室の実証研究を行った。集団心理教育の進め方を用い、参加者が希望するテーマの学習会とディスカッションを繰り返し、糖代謝のセルフモニタリングをしながら生活改善に2年間取り組んだ。参加者9名の参加観察データとフォーカス・グループ・インタビューの内容を分析データとした。質的統合法で分析統合を繰り返し、7つのシンボルマーク《興味・関心の高まり》《帰属意識と開放性の高まり》《他者の肯定と支え合い》《問題意識と現実に向かう意欲》《予期性不安の表出》《満足感と自己成長の自覚》《生活の質改善とコントロール感の獲得》にまとめられた。

研究成果の概要(英文)：We studied the patient participation in planning style of diabetes education. The participants of this study were the mentally handicapped outpatients of the daycare center complicated with diabetes. Group psychological education was used in the classroom. The participants had repeated the meetings with discussion to learn their favorite themes. They performed self-measurement of the blood sugar and HbA1c and analyzed it. Observations of the diabetes education and focus group interviews were used as our data. The KJ method was used to analyze and integrate the data. As a result, the data was classified under seven symbol marks as follows: "heightening interest and concern", "heightening of a sense of belonging and openness", "acceptance of others and mutual assistance", "problem consciousness and motivation to reality", "expression of anticipatory anxiety", "awareness of satisfaction and self-actualization", and "improvement of quality of life and acquisition of control".

研究分野：看護学

キーワード：精神看護学 精神障がい者 糖尿病 患者参加型糖尿病教室 エンパワメント

### 1. 研究開始当初の背景

精神疾患患者における肥満や糖尿病の発症には、日常生活における活動性の低下や療養環境に基づく運動不足、抗精神病薬による過鎮静、不規則な食習慣などの要因が指摘されている。加えて、1990年代に導入された非定形抗精神病薬の副作用として肥満や高血糖が重要視されるようになった。また、2005年に世界精神保健連盟が、統合失調症患者のメタボリックシンドローム予防として、食事や運動など生活支援の重要性を示したことから、精神科領域でも生活習慣病に関する患者教育の必要性が言われるようになった。

そこで、研究代表者はH17・18年度の基盤研究(C)において、精神疾患患者の糖尿病教育の検討資料を得ることを目的とし、全国の公立精神科病院を対象として調査した。統合失調症で糖尿病を併せ持つ入院患者の血糖コントロール困難の要因を調査した結果、自制困難、糖尿病の病識欠如、糖尿病の誤った認識、精神症状の悪化の有無の4要因が明らかになったほか、血糖コントロールに強く影響していたことを明らかにした。

H21-H23年度の基盤研究(C)では、糖尿病を併せ持つ精神疾患患者を参加者とし、糖尿病の自己管理に向けた介入研究を行った。具体的には、参画の原理と心理教育(精神疾患やエイズなど受容しにくい問題をもつ人に、療養生活に必要な知識提供と心理療法的な配慮を加えた教育的アプローチの総称)の進め方を参考に、患者参画型糖尿病教室を実施し、教育方法を開発した。介入結果として、糖尿病の自己管理に向けた参加者の行動変容を確認した。また、同教室に関わったスタッフの意識の変化と、エンパワーを支援する方法を見出した。

### 2. 研究の目的

本研究では、精神科デイケアに通所する糖尿病を併せ持つ精神障がい者を参加者として、参画型糖尿病教室(以下、教室)を実践し、以下を明らかにすることを目的とした。

- 1) 参加者の糖尿病自己管理に向けた行動変容
- 2) 参加者に育まれるエンパワメントプロセス

#### 【用語の定義】

「エンパワメントプロセス」: 精神障がい者を生活者と位置づけ、パワーレスな状態にあり糖尿病の自己管理がうまくできていない精神障がい者の成長や変化の可能性を尊重し、教室の運営スタッフとのパートナーシップや参加者との相互共有・支援により、パワーが発達する過

程と定義した。

「参画型糖尿病教室」: 参加者が自ら参加する教室の場づくりに参加するという学びへの参加行動を促す教室運営の方法と定義した。具体的には、参加者が学習したいテーマを出し、自らの情報提供、評価に直接参加し、学び合う場づくりをする。

#### 【教室の運営】

月に2回のペースで教室を開催する。KJ法を用いて参加者の糖尿病に関する知識を整理することで、自分たちで学習したいテーマ発見につなげる。

教室では、心理教育の進め方を用い、学習会とディスカッションを繰り返し、糖代謝のセルフモニタリングと併せ、糖尿病コントロールに向けた目標設定・行動に取り組む運営を2年間行った。

### 3. 研究の方法

#### 1) 対象者

精神科デイケアに通所する糖尿病を併せ持つ精神障がい者で参画型教室に継続参加しており、研究協力の得られた11名のうち1年以上参加した9名を対象とした。

表1 参加者の概要

参加者	年齢	性別	糖尿病治療	HbA1c				生活状況
				1年目のHbA1c	2年目のHbA1c	糖尿病	糖尿病	
A氏	50歳代	M	食事療法 経口血糖降糖薬	7.5	6.8	8.1	7.3	一人暮らし 働きながら週3回デイケア参加 家族は1人だけ、一人に付き
B氏	50歳代	M	食事療法 運動療法 経口血糖降糖薬	8.4	6.3	7.5	6.1	一人暮らし 毎日デイケア参加、毎日21時以降 在宅生活
C氏	60歳代	M	食事療法 経口血糖降糖薬	6.3	5.9	6.6	5.0	一人暮らし 毎日デイケア参加 家族は2人、一人に付き
D氏	60歳代	M	食事療法 運動療法 経口血糖降糖薬	6.6	5.7	7.3	5.5	一人暮らし アルバイトで生活 毎日デイケア参加 家族は2人、一人に付き
E氏	70歳代	F	食事療法	6.0	5.0	5.9	5.3	一人暮らし アルバイトで生活 毎日デイケア参加
F氏	70歳代	M	食事療法 経口血糖降糖薬	8.0	6.8	7.2	6.2	一人暮らし 毎日デイケア参加 家族は2人、一人に付き
G氏	40歳代	M	食事療法 運動療法	7.6	6.2	13.0	7.1	家族に同居 家族が多く、家族も食事療法に協力する環境は無い
H氏	80歳代	F	食事療法 経口血糖降糖薬			6.8	6.4	家族に同居 家族が少人数
J氏	30歳代	M	経口血糖降糖薬 インスリン療法			12.9	6.5	家族に同居 家族が少なく、家族も食事療法に協力する環境は無い 家族が少なく、家族も食事療法に協力する環境は無い

#### 2) データ収集方法

教室継続中に4回実施したフォーカス・グループ・インタビューの内容を逐語録にし、分析データとした。

#### 3) 分析方法

複雑な要素の意味やつながり、関係を空間的に示すことで、全体の構造的な理解を可能にする質的統合法(KJ法)で分析した。

#### 4) 倫理的配慮

島根県立大学短期大学部研究倫理審査委員会の承認を得て実施した。

具体的には以下の配慮を行い実施した。

- (1) 患者および研究協力者の所属施設に対して、研究の主旨および内容・方法、公表方法等について説明し、承諾を得た。
- (2) 患者および研究協力者に、研究者から直接研究の目的、方法、研究協力に伴う利益・不利益、研究協力への自由意思、プライバシーの保護方法、公表方法などに

ついて、文書と口頭により説明し、文書で承諾を得た。

- (3) フォーカス・グループ・ディスカッション内容は、録音の了解を得た上で録音し、テープ起こしをし、逐語録にしたものをデータとした。
- (4) データ化の段階で患者番号を用いて取り扱い、特定できないように配慮した。
- (7) テープおよびデータの管理について、鍵のかかる研究室内に保管し、セキュリティシステムのあるメモリフラッシュを使用するなど厳密に管理した。
- (8) 糖代謝検査について、予め主治医の了解を取り、糖尿病教室開催時に希望者のみ、看護師指導の下に自己測定してもらい、検査データの活用について、了解を得た。

#### 4. 研究成果

分析統合を繰り返し、7つのシンボルマーク《 》にまとめられた。

参加者が持っている潜在的な力を土台にして、本教室の学習内容に《興味・関心の高まり》が生じ、回を重ねるうちに少しずつ《帰属意識と開放性の高まり》が確認できた。そこから《他者の肯定と支え合い》ができるようになると共に《問題意識と現実に向かう意欲》が生じていた。

課題解決に向かう過程で《予期性不安の表出》をしながら対処行動をとり、検査結果の改善がみられると、《満足感と自己成長の自覚》につながっていた。

そして、ご飯量を測る、運動に取り組むなど《生活の質改善とコントロール感の獲得》につながっていた。

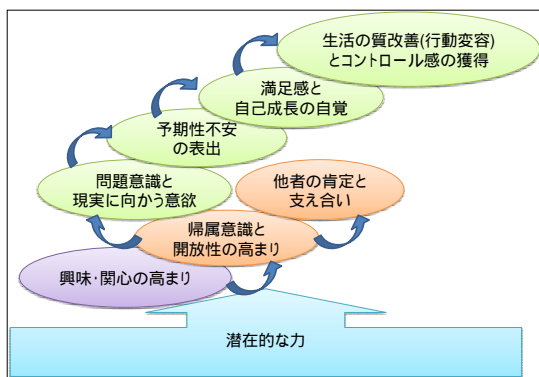


図1 参画型糖尿病教室に参加する精神障がい者のエンパワメントプロセス

#### 【結論】

- 1) 集団での学習会とディスカッションを繰り返すことで、エンパワーのプロセスが漸進した。
- 2) HbA1c 値などをセルフモニタリングすることで、目標を設定して生活改善に取り組むなどの行動変容がみられた。

#### 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 8 件)

- 1) 石橋照子, 松谷ひろみ(2014): 朝顔栽培に従事した精神障がい者から内容分析

法により抽出したエンパワメント, インターナショナル Nursing Care Research 113(3), 1-9, 2014.

- 2) 石橋照子, 鳥屋尾恵, 黒目奈美, 藤井明美, 多久和かおり, 山本恭平, 原和輝(2013): 精神疾患患者の排尿障害改善に骨盤底筋運動を導入した効果, 島根県立大学出雲キャンパス研究紀要, 8(1), 85-96, 2013.
- 3) 松谷ひろみ, 石橋照子: 精神疾患患者のエンパワメントと園芸作業への継続参加の関係, 第7回 島根看護学術集会論文集, 37-39, 2013.
- 4) 石橋照子, 藤井明美, 福島素美, 門脇恵子: 患者参画型糖尿病教室に関わったスタッフの意識の変化とエンパワメントを高める介入方法, 第6回島根看護学術集会論文集, 42-45, 2012.
- 5) 松谷ひろみ, 石橋照子, 藤井明美, 神門卓巳, 宮廻克己, 姫宮雅美, 高橋弥生, 日野恵美子, 稲田順子, 妹能紀美子, 竹下裕子: 精神疾患患者による朝顔栽培への参加継続要因の検討, 島根県立大学短期大学部出雲キャンパス研究紀要, 7(1), 33-42, 2012.

〔研修会講師〕

- 1) 「患者参画型糖尿病教室において育む精神障がい者のエンパワメント」第10回糖尿病とこころ研究会, (2013年7月4日, ニューウェルシティ出雲)
- 2) 「身体合併症を持つ精神障がい者への看護」, (2012.1.17 社団法人日本看護協会神戸研修センター)

〔学会発表〕(計 22 件)

- 1) 松谷ひろみ, 石橋照子: 参画型糖尿病教室に参加する精神障がい者のエンパワメントプロセス, 日本看護研究学会中国四国地方会第28回学術集会, 2015年3月, 出雲市.
- 2) 石橋照子: 精神科病院における摂食・嚥下機能改善への試み, 日本看護研究学会第40回学術集会, 2014年8月, 奈良市.
- 3) 石橋照子: 統合失調症患者の糖尿病自己管理をめざす患者参画型糖尿病教室の進め方, 日本看護研究学会第27回中国・四国地方会学術集会, 2014年3月, 伊予郡.
- 4) 石橋照子, 松谷ひろみ: 精神科リハビリ病棟における朝顔栽培を通して確認できた患者のエンパワメント, 第39回日本看護研究学会学術集会, 2013年8月, 秋田市.
- 5) 石橋照子, 藤井明美: 患者参画型糖尿病教室の参加者にみられたエンパワメントの変化, 第1回日本糖尿病協会療養指導学術集会, 2013年7月, 京都市.

## **6 . 研究組織**

(1)研究代表者

石橋照子 (TERUKO ISHIBASHI)

島根県立大学・看護学部・教授

研究者番号：40280127